

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400431		
法人名	社会福祉法人 ぶどうの枝福祉会		
事業所名	グループホーム日高愛の園		
所在地	兵庫県豊岡市日高町栗山661		
自己評価作成日	平成24年6月22日	評価結果市町村受理日	平成24年9月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874400431&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874400431&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成24年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者お一人お一人の生活暦を重視し、その方らしく生活して頂けるよう援助を行っている。ご家族との連携も密に行い、情報を共有している。地域の中のグループホームであり、地域や学校、保育園等との交流や地域のサークル等の慰問もあり、社会との関りもとぎれない様に継続していただいている。又同一法人に老人保健施設・特別養護老人ホーム・訪問介護ステーション・デイケア・デイサービスを有する事の強みを生かし、途切れないサービスを提供している。玄関扉の施錠についても、現在は解錠・開放していることが日常になっている。夜間のみ、施錠を行っている。又両ユニットにて、近くの温泉にも小遠足に行っていたりしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関係を構築しながら、自然に恵まれた中にある平屋建ての2ユニットのグループホームである。近隣は住宅地や商店が点在し小学校や幼稚園、駐在所などの公共機関があり、それぞれの住民との交流にも力を入れている。又夏まつりなどの行事も実施し地域の方も参加できるようなイベントを開催している。理念の共有や職員のスキルアップ等にも力を入れており、管理者と職員間の共有も保たれ、チームケアを実践している。利用者の家族へも毎日の様子を1行にまとめ、毎月家族の方に送付しており、日々の様子を分かりやすく伝え、家族と利用者をつなぐ役割を果たしている事は評価したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に理念の唱和を行い、理念に基づいたサービスの提供を心掛けている。	新任研修の際には必ず理念と事業所としての方針を確認している。日常的には、朝礼で唱和し、ユニット会議の際には、日々の実践に照らし合わせて、理念に基づいたサービスの提供状況を確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方にも散歩中に話しをしたり、小学校や幼稚園、地区行事にも招待して頂き参加させて頂いている。	日常的には散歩を通して、近所の方と交流したり、近くの小学校や保育園での運動会やコンサートに招待してもらおう等の交流がある。事業所で花火をする際には、近所の方々や子ども達を招待することもある。高校生のボランティアも受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年の9月に地域住民を対象とした認知症の講習会を開催予定であったが台風の為、中止となり、以後は行っていない。業務以外にも、高齢者が参加される行事に定期的にお手伝いを行っている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しており第三者評価の状況や説明、報告を行っている。また、サービスの状況や意見交換も行っている。	民生委員、地区代表、地域包括支援センターが参加している。平日開催のため、現在のところ家族の参加は難しい。出席者からは積極的な発言もあり、地域との関係構築に生かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、意見交換を行っている。	地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に2ヶ月に一回参加し、市町村と連携をとっている。地域ケア会議は、平成19年からの取り組みであり、既に顔の見える協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯や雨天時以外は玄関の解放を行っている。また、法人グループの勉強会において学習の機会があり、参加している。	ユニット会議や法人が行う研修、新人研修等で身体拘束に対する学習を行っている。法人全体としては、身体拘束ゼロ委員会もある。また、近年は職員の介護技術の向上に伴い、玄関を開錠しても、対応できるようになってきた。そのため日中は施錠しないケアを実践できている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内や法人グループの勉強会にて学ぶ機会を持っている。施設内においても、日々注意を払っており、防止に努めている。	新人研修やユニット会議で虐待防止について学んでいる。管理者は職員の疲労やストレスに配慮し、職員同士も横のつながりで支えあい、虐待防止に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方が1名おられる。今後は管理者のみならず、職員においても学ぶ機会を持ち、活用出来るように検討をしている。	ユニット会議で学ぶ機会を持っており、家族からの相談にも対応している。7月までは成年後見制度を利用していた方がおられたため、実際の運用についても実績がある。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には書面にてご家族に説明し、又質問もして頂き納得出来るように説明を行っている。退去時にもご家族と相談し、納得の上でして頂いている。	契約の際には、前もって書面を渡し、納得して頂けるよう努めている。また、退去後についても、家族の不安を軽減するために、詳しい情報提供に努めている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1度家族会を開催しており意見交換を行っている。また書面にて苦情担当者等記載しており、苦情は訴えられた事はない。	ケアプランの更新時や、年一回の家族会の際に意見を聞くようにしているが、入居者や家族から運営についての意見や要望が出ることはあまりない。また遠方の家族が多く、家族会への参加が難しい状況もある。	家族会のさらなる活性化と共に、遠方の家族が意見や提案をしやすくなるようなアンケート他の取組みを期待したい。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議にて意見を聴く機会を設け実行している。また、その意見を運営会議にて他部署と共有している。	年一回以上、職員の個別面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。日常的には、ユニット会議や法人内の他事業所と行う運営会議にて、職員の意見や提案を取り上げ、実現に向けて取組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善給付金を有効に利用し、向上心ややりがいについては各人へのヒヤリングを通し、自身のやりたい事等を把握し対応している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、OFFJTに重点を置き、園内研修の精度を上げる。またグループにおいて教育委員会を設置し、月3回の勉強会を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・管理者間のネットワーク作りを推進している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接を行い、本人様の思いや希望を聴く機会を作っている。出来るだけ希望に近づける様に努力している。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に話し合いをし、ご家族の思いを受け止める努力をしている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている事を見極め支援している。他サービスも含めた対応をしている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬う気持ちを忘れずに人生の先輩として学んだり喜びや悲しみを共にできるように努力している。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の苦情や思いを傾聴し、問題の早期解決に努め心身の負担軽減に努めている。また、問題発生時には速やかに家人様に連絡をし、理解と協力を頂いている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折り、知人や親戚の方が面会に来られたり、馴染みの店に買い物に行かれたりされている。また、老人会や、サークル仲間の方等が来られ一緒に過ごされる時もある。	入居前に参加されていた押し花サークルの方と一緒に事業所で押し花をしたり、以前から通われていた呉服屋さんや美容院に引き続き通っている方がおられる。また、家族に送迎をお願いし、友人宅を訪問される方もおられる。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに仲間意識を持たれた様子で会話をされているが、時折り認知症の進行によりトラブル発生時には職員が間に入らせて頂いている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族が来園され、関係を保っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの見直し時、又必要に応じて個々に聞いた事や普通の会話から聞き取りをして把握に努め、思いや希望が叶えられるように対応している。	日々の関わりの中で、本人の思いや意向を把握する様に努め、カルテや日誌に記載し、職員間で共有している。またセンター方式を利用し、家族からの情報として、本人の希望や思いを把握している。	日常的なサービス提供のなかで、センター方式をさらに活用し、本人の思いや希望を叶えられるよう、ケアプランの作成やケアに生かされることを期待したい。
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会に来られた知人の方等に聞いたり、個人との会話により把握している。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力に合わせた声掛けや介助を行っている。集団の中でも個々の能力を發揮出来るように援助を行っている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、又必要に応じてケアプランの総括を行っている。本人や家族の希望も聞きケアプランに反映させ、月2回のユニット会議にてケアの検討を行っている。	各居室の担当職員が、月1回モニタリングを実施し、必要時や原則、半年に1回は計画の見直しの為のカンファレンスの会議で意見を話し合う機会を設けている。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、連絡帳を活用したり必要に応じてユニット会議にて話し合い記録に残している。又、アセスメント表を活用している。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のその日の状況や状態を観察しながら支援し又、家族の状況も理解し支援している。老健やホームヘルパー等からも、助言、相談を行っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の学習の一環として来られたり、又、避難場所にも協力して頂いている。消防署には避難訓練や救命講習、又ボランティア、警察にも協力して頂いている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については家人の希望や相談にて事業所の協力医ではない場合は家人対応にて受診して頂いている。協力医には定期的に受診し診察をして頂き、家人にも電話等にて報告を行っている。	かかりつけ医は家族の意向や希望を重視されている。歯科、耳鼻科、皮膚科等、不定期な受診についても家族と協力して、柔軟に対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し利用者の状態把握を行うと共にかかりつけ医の看護職員とも情報交換ができる関係が築けており健康管理等の支援を行っている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は入院先に情報提供を行っている。また、入院中も、連絡を取り合い退院日時等を病院関係者や家人と相談をしている。	入院された際には、入院先の病院へ情報提供を行い、管理者等が病院へ直接の面会なども行い情報交換を行う事を大切にし退院に向けての相談などを実施されている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する同意書を家人に説明を行い意向の確認を行っている。また、その意向を主治医やスタッフ間で共有し支援に取り組んでいる。	看取りを行った経緯もあり、重要事項説明の中で看取りについての指針を示し、利用されている方の状態変化等があった場合に随時、相談しながら、意向を確認されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が実施する救命講習を受講すると共に法人グループが実施する勉強会にも参加している。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立ち会いのもと避難訓練を行っている。また、運営推進委員会等で地域の避難所を確保して頂いている。	火災を想定した避難訓練だけでなく、水害に対しても避難方法などを検討されたり、昨今の災害を教訓として安全を守るために、近隣住民の方に避難の際に協力を得ようと努力されている。	水害等も含めた災害対策のマニュアルの作成を構築させ、近隣の方とも協力体制が得られるように期待したい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本方針に基づいて個人を尊重し声掛けや対応を行っている。	理念に基づき、会議だけでなく日々の業務の中での気づきや振り返りを職員同士でも実施しながら人権意識や個人の尊重を日々考えている様子が伺える。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中より思いや希望を引き出せるように努めている。また、お手伝い等も、利用者様が自己決定出来るように声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調や状態に合わせ支援を行っている。また食事也希望にそった時間に食べて頂けるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している利用者の方には好みの服装をして頂いている。また、家人様にも好みの服装等を聞き、個々に合った身だしなみが出るように支援している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きな食べ物を聞きメニューの作成をしている。また、お任せメニューの日には利用者様と相談しながら献立を決めている。準備・片付けに関しても、個々の能力を生かしながら職員と共に行って頂いている。	調理や食器洗い、片づけなど、一連の食事作りを入居者の方も役割を持って職員の方と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた食事の提供を行っている。また、水分量においても、チェック表を確認しながら水分補給を行って頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを行っているが、毎食後や一部の利用者様においては出来ない日もあり、毎食後行えるように検討をしている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて排泄のパターンを調べ、声掛けや誘導を行っている。殆どの利用者様は日中トイレを使用して頂いているが、夜間は状況に応じてパット交換を行っている。	排泄表を作成し、排泄誘導を実施し排泄の自立に向けて実際におむつを使用しなくても排泄できるようになった実績もみられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューにおいて食材の工夫を行っている。また、便秘傾向の利用者様においては散歩や廊下歩行、体操等の運動の声掛けを行っている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望者には日中いつでも入浴出来るように援助を行っている。しかし、夜間希望される方においては支援出来ないのが現状である。	個浴を実施され、基本的に週2～3回程度の入浴を実施している。入浴時間の希望などを伺いながら現在は概ね午後入浴を入浴時間として設定されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで昼寝や休息をして頂いている。また、受診や外出等、状態に応じて休息の声掛けを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より副作用や注意事項を聞き他のスタッフにも理解出来るように連絡帳等を活用しながら支援・症状の変化に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな時代劇のDVDを観賞していただいたり、天気の良い日は散歩の声かけを行い、気分転換を行っている。又体操は日課となっている。生花、花の水やり、食器洗い、食器拭き等出来る事はして頂くよう役割を作っている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日中は玄関を解放しており、戸外に出れるように支援している。また、希望に応じて馴染みの店に買い物に行けるように援助している。	庭の畑で作業をされたり、馴染みの店に衣類等を購入しに行くなど、利用者の希望に沿って外出できるように支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家人了解のもと所持して頂いている方もおられるが、基本的には金銭は預らせて頂いている。ただ、店での支払時には本人が支払い出来るように援助している。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされる事は無いが、職員が電話をした時等に話しが出来るように援助をしている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾り、湿温計にて過ごしやすい環境作りに努めている。また、夏場は窓際に緑のカーテンを設置し暑さ対策と共に季節感を取り入れられるように工夫をしている。台所へは自由に入出入り出来るようになっており、各居室や共用空間には混乱されないように表札を取り付けている。	野菜畑や天窓や窓も多くあり室内が開放的な雰囲気になっている。リビングにはテーブル、畳が設置されて、利用者の方が過ごしやすい工夫がされている。廊下の一角にもソファがあり外を眺めたりプライベートな空間も設置されている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、他利用者様と話をされたり、一人で過ごされている事もある。また、廊下奥にもソファを設置し、外を見ながら過ごされたり会話を楽しまれたりされている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人や本人と相談のもと、畳部屋と洋室の2種類が選べるようにしている。また、本人の使われていた物を置かれている部屋もある。	利用者の各居室は居室担当が表札を作成したり室内の飾りつけなど利用者の希望に応じて作成されている。自宅にあった家具や趣味の作品などが自宅に近い雰囲気を作っている工夫がみられる。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や共有スペースには表札を付け理解出来るように明記している。また、日付も分かるように手作りの日めくりも設置し交換して頂いている。		